

12. 歴史的建造物（エコミュゼ）の修復保存と失業者の職業訓練
 ~地域の歴史の保存・展示と雇用の創出の組合せ~
 ル・クルゾー・モンソ・レ・ミーヌ都市共同体（フランス）

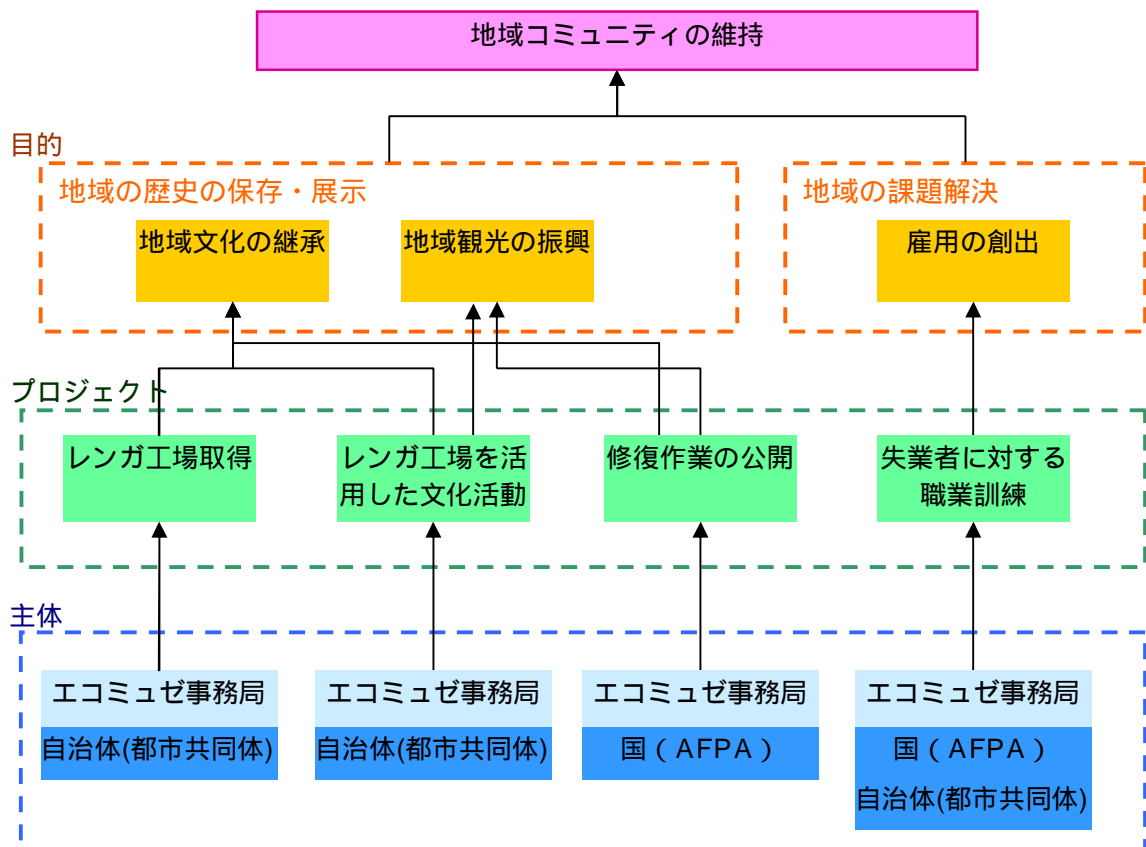
解決すべき課題

経済	商工業の振興
	農林業の振興
	観光の振興
経済・社会	雇用の確保
	中心市街地の活性化
社会	定住人口の増加
	アクセシビリティの向上
	地域の荒廃の抑制
環境	環境負荷の低減

事業概要

当該地域は1990年代、産業構造の転換により、工場移転と失業者の増加が課題となっていた。そこで、全国成人職業訓練協会（AFPA）との共同事業で、旧レンガ工場の修復工事を、失業者に対する職業訓練プログラムとして実施した。1996年から2005年まで失業者の職業訓練が実施されるとともに、修復されたレンガ工場は地域の文化・観光資源として活用されている。

プロジェクトパッケージの構造図



プロジェクトの背景

ル・クルゾー・モンソ・レ・ミーヌ都市共同体（以下「都市共同体」）では、中心都市クルゾーに立地していたシュナイダー社（1836年に炭鉱と鑄造所から出発し鉄鋼業に進出したが、現在は鉄鋼業から撤退し世界的な電機メーカー「シュナイダー・エレクトリック」となる）の鉄鋼業を中心に、産業革命以降、第二次産業を中心とした産業が発展した地域であった。

しかし、1980年代に地域の中核企業のシュナイダー社が鉄鋼からの撤退を表明するなど、都市共同体内のかつての基幹産業が衰退し、失業者が増加していった。

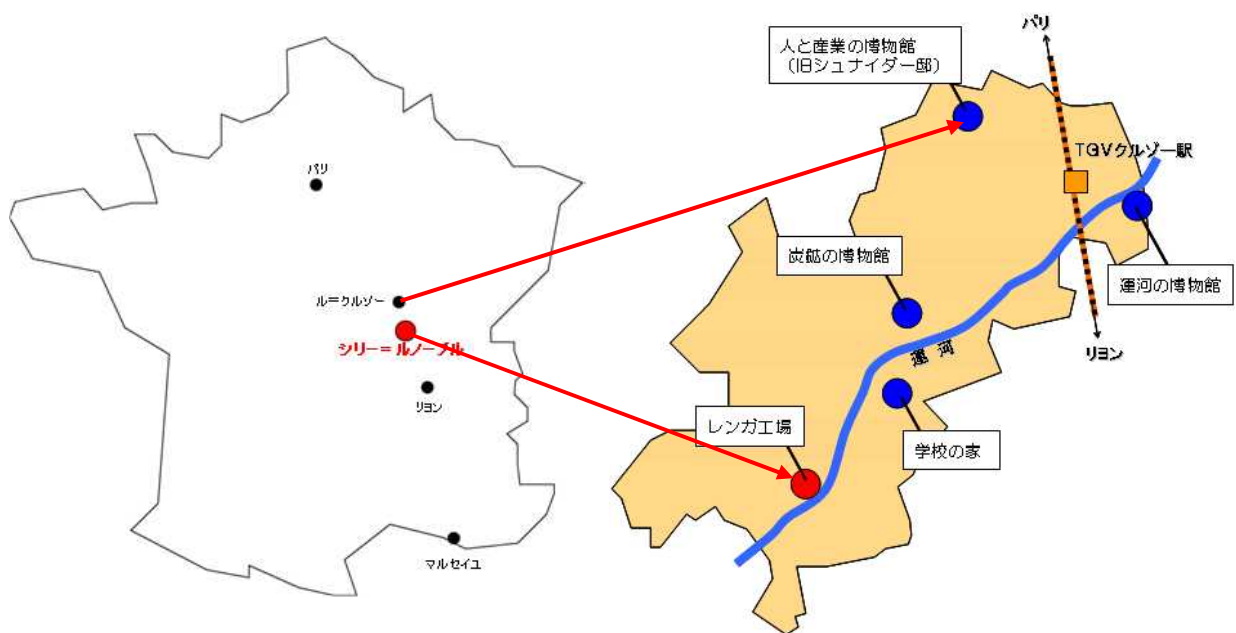
一方、当該地域における産業文化継承の必要性を感じる民間団体は、産業遺産を保全・修復しミュゼ（博物館）として活用するための取組みを始めていた。

本事例における「パッケージ化」

産業構造が転換し失業者が増加した地域のコミュニティ維持のために、地域の歴史の保存・展示（エコミュゼ活動）と雇用の創出（職業訓練）を組み合わせた。

廃墟となった旧レンガ工場が、地域の歴史を伝える施設として生まれ変わるとともに、修復作業が失業者の雇用訓練の場になることで、地域に対し文化面、経済面の効果をもたらしている。

ル・クルゾー・モンソ・レミールの位置と都市共同体内に点在するミュゼ



(1) プロジェクトの内容

エコミュゼ構想からレンガ工場取得まで

1970年代都市共同体内では、地域の産業文化継承の必要性を感じていた民間団体が存在し、旧シュナイダー邸（シュナイダー社の創業者）の保存運動を契機に、地域の建築、景観、文化様式を「エコミュゼ」()として保存・活用することを検討し始めた。当該団体はエコミュゼ事務局となり、旧シュナイダー邸を「人と産業の博物館」(写真1)として保存、展示するとともに、複数のエコミュゼプロジェクトを成功させた。1990年代当時は、地域の産業文化の継承において必要となる施設の保全を訴えるための組織として、地域において精力的に活動を行っていた。

1995年、上記活動の一環として、エコミュゼ事務局は、当該旧レンガ工場を取得し、レンガ工場内に設置されている様々な機械と、レンガ工場の建物を修復し、ミュゼ（博物館）として保存・公開することとした（写真2）。

エコミュゼ（エコミュージアム）：特定の地域で受け継がれてきた自然、文化、歴史、生活様式などについて、地域住民が主体となって、永続的な研究、保存、展示を行う活動のこと。活動主体や保存された施設単体について指す場合もある。

失業者に対する職業訓練（レンガ工場の修復）

レンガ工場は、1960年代に閉鎖された施設であったため、エコミュゼ事務局が取得した時点で施設の老朽化は著しく、ミュゼとして再生させるために、大規模な修復工事を実施する必要があった。

エコミュゼ事務局は、レンガ工場の修復工事を、当時地域内の大きな問題となっていた失業対策と組合せることとした。専門の建設業者に依頼すれば、より早く修復工事を完了させることが可能であったが、エコミュゼの活動を地域の失業対策の一環として実施することを優先したためである。

上記事業の実施に際し、エコミュゼ事務局はEUから文化の継承に係る公的支援として、10年間で700万ユーロの補助金を受け、レンガ工場の修復にあたって必要となる工材に使用した。また、エコミュゼ事務局が、職業訓練プログラムの実務について全面的に委託した全国成人職業訓練協会（AFPA：Association nationale pour la Formation Professionnelle des Adultes）（以下「AFPA」）に対し、EUは別途、失業者対策に係る補助金を交付した。



写真1：旧シュナイダー邸（人と産業の博物館）



写真2：旧レンガ工場外観
（シリアルノーブル市資料）

職業訓練は、3ヶ月、6ヶ月、1年のいずれかの期間にて実施され、失業者に対し、レンガ工場の建物や機械の修復を通じ、職業モラル及び各種技術を習得させることを目的としている。

プログラムへの参加者の選定やプログラム終了後の職業の斡旋は、全て AFPA が担当しており、対象となる失業者は、概ね都市共同体内の者である。その他、少年院に入所中の若者に対する、1日職業体験プログラムも実施している。このプログラムによって、1996年から2005年までの10年間の間、700人の失業者に対する職業訓練が実施された。

ミュージゼとしての展示・公開

修復作業の公開

職業訓練プログラムによる施設の修復過程は、エコミュージゼの展示プログラムとして公開された。当初は、職業訓練プログラム関連者等のみに限定していたが、その後、地域のボランティアに対する開放など、開放する頻度、対象を徐々に拡大していき、2000年より一般公開を行った。

旧レンガ工場を活用した文化事業

2005年 EU からの補助金交付の終了に伴い、職業訓練プロジェクトは終了した。(専門業者が実施していないため、レンガ工場の半分の施設は修復されていない)(写真3)

現在は、現代芸術のパフォーマンスの実施、施設のライトアップ、エコをテーマとした勉強会を実施している(写真4)。今後は、都市共同体でコレクションしている現代芸術の展示も予定している。このプロジェクトは、国の FRAC (文化活動支援基金) を活用している。

FRAC : 1982年創設。地域住民の同時代の芸術(絵画、彫刻、写真、装飾美術、工芸等を含む)に対する感受性を高めることを目的とした基金。作品の収集だけでなく、地域間での貸出活動に対しての支援も行う。



写真3 : 旧レンガ工場の未修復部分



写真4 : ライトアップイベントの告知

(2) 効果

雇用の創出

職業訓練プログラムに参加した失業者は、1996年から2005年までの間に約700名であり、職業訓練プログラム実施最終年におけるプログラム修了者の就職率は約60%となっている。これは、フランス国内の同様の職業プログラムと比較しても高い水準である。

また、プログラムのうち、左官工の訓練を行った失業者については、プログラム途中の

段階で民間企業への就職が決定することも珍しくなかった。こうした失業者教育プログラムでは、プログラムにおける訓練内容の質を担保し、当該プログラムにおいて訓練された人材が有用であるということを民間企業側に認識してもらうことが重要である。

地域文化の継承

廃墟となって取り壊される可能性のあったレンガ工場を修復保存することで、地域文化が形となって残ることとなった。

地域観光の振興

レンガ工場には、年間約 2,000 人が来館している。多くは無料開放日における来館者であり、入館料を支払って入館する来館者は、ハイシーズンで 40 人/日程度となっている。入館料が、1 人あたり 3 ユーロであるため、入館料による経済効果は限定的である。むしろ共同体内の他のミュージゼと連携することによって、地域観光資源が充実することが期待される。

(3) 成功要因

旧レンガ工場の活用

歴史的遺産としての活用

廃業によって取り残されたレンガ工場に、地域の歴史を伝える遺産としての価値を見出し、建物および内部の機械を保存、展示対象とするとともに、文化活動の拠点として活用したことで、廃墟が地域の資産に変わった。

職業訓練施設としての活用

修復にあたって、専門の業者に依頼するのではなく、失業者を参画させることで、雇用の創出を生むと同時に、修復費用も EU の補助金を活用することができた。

(4) 今後の課題

事業の実施にあたっては、EU、国の補助金を活用したが、エコミュージゼ事務局に資金がないため、補助金の期間が終了すると事業自体も終了してしまう。来場者や地域内住民から寄付を募るなど、財政面での強化が必要である。

レンガ工場を含むミュージゼ群は、都市共同体の観光資源としても期待されるが、現在はルートの設定などネットワーク化がなされていない。都市共同体全体の観光戦略と結びつけて活用を図るべきである。

関係リンク先

クルゾー・モンソエコミュージゼ

<http://www.ecomusee-creusot-montceau.fr/>